

令和 5 年 6 月 11 日現在

機関番号：32682

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2022

課題番号：19K13118

研究課題名（和文）19世紀末から20世紀前半の英国ユートピア文学・思想と人類学言説

研究課題名（英文）British Utopian Literature and Thought and the Discourse of Anthropology

研究代表者

小澤 央 (Ozawa, Hisashi)

明治大学・商学部・専任准教授

研究者番号：80838128

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000 円

研究成果の概要（和文）：本研究は、主に19世紀末から20世紀前半の英国におけるユートピア文学・思想と人類学の関係を分析した。本研究により明らかになったのは、①ユートピア文学・思想が、異文化や他者を想像し、「自分たち」とは違った人間性や世界のあり方を構想するうえで、人類学から影響を受けていたこと、②ユートピア文学・思想が、人類学に対して、異文化を理解、記述することの難しさや、他者とともに学び生きることの大切さを説くなどの提言を行っていたことである。

研究成果の学術的意義や社会的意義

ユートピア文学・思想と人類学は、異文化の他者に関する点で共通しており、何らかの関係性が推定されるが、これまであまり研究されてこなかった。本研究は、19世紀末から20世紀中期のユートピア作品のテキストを検討することで、ユートピア作品が、異文化や他者の想像において人類学から影響を受けるとともに、人類学に対して、そのオルタナティヴを提案するなど、積極的に働きかけていたことを具体的に示すことができた。

研究成果の概要（英文）：This research analysed the relation between anthropology and British utopian literature and thought from the late 19th century to the mid-20th century. It revealed that, under the influence of anthropology, utopian writers imagined other beings and cultures and presented alternative forms of humanity and the world, and that utopian writers offered their opinions on anthropology in regard to the difficulty in understanding and describing others as well as the importance of living and learning with others.

研究分野：英語文学

キーワード：ユートピア ディストピア 人類学 帝国主義 アイデンティティ

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

ユートピア文学・思想と人類学は、異文化や「他者」の存在が重要な役割を果たす点で共通している。両分野には何らかの重要な関係性があると推測されるが、この点を正面から問う研究はこれまであまりなかった。

私は博士課程で20世紀前半のモダニズム文学を研究しており、その過程でこの時期の文学が人類学と関わりが深いことを知った。また修士課程では英国のユートピア文学の歴史と帝国主義の関係について論文を書いたことがあり、ユートピア作品において「他者」との関係構築が重要なテーマであることに気づいた。

以上の状況と経験を踏まえ、19世紀末から20世紀前半のユートピア文学・思想と人類学言説の関係を分析する研究に着手することにした。

2. 研究の目的

本研究の中心をなす問いは、ユートピア文学・思想と人類学言説（プロの人類学者のみならず作家などアマチュア人類学者による言説も含む）がどのような関係にあるのかというものであった。ユートピア文学・思想のテキストは19世紀末から20世紀中期の英国の作品を中心としたが、ユートピアというジャンルの性質上（作品同士の関連性が非常に強い）、ほかの地域や時代にもできるだけ関心を向けるようにした。本研究の目的は、①ユートピア文学・思想が人類学言説からどのような影響を受けていたか、②ユートピア文学・思想が、主に1980年代以降に批判される人類学の問題（人類学者とその研究対象とされる人々の間にある不均衡な力の関係など）をどの程度予測していたかを明らかにすることであった。

3. 研究の方法

ユートピア文学・思想、人類学のテキストを精読、比較、分析した。両分野の先行研究や評論、関連する批評理論を参考資料とした。

ユートピア文学・思想については、H. G. Wells、Aldous Huxley、Ursula K. Le Guinといった代表的作家に加え、Rose Macaulay、Olaf Stapledon、James Hilton など、先行研究は多くないがユートピアの伝統に重要な貢献をした作家の作品を対象とした。また、未来の人類や文明を多面的に論じた *To-Day and To-Morrow* シリーズ（1923~1931）収録の作品も取り上げた。

人類学については、人類学の形成期に活躍した Bronisław Malinowski、Ruth Benedict、Margaret Mead らの著作、スミソニアン研究所のアメリカン・インディアンについての報告に加え、20世紀後半の人類学に対する批判を意識した James Clifford らの著作、今日の人類学を代表する Tim Ingold らの著作を対象とした。人類学の専門家ではない Ada Chesterton、D. H. Lawrence、George Orwell などの作家が、英国内外の人々や文化を人類学的手法で記述する言説も取り上げた。

批評理論については、特にポストコロニアル理論、ジェンダー理論に注意を払った。

4. 研究成果

(1) 2019 年度

当該年度は、Aldous Huxley を中心に 1930 年代～1960 年代のユートピア作品を分析した。“The Vestiges of Imperialism in Aldous Huxley’s *Brave New World*: Reconstructing a Hidden History behind the World State”〔論文〕（以下、業績の詳細は「主な発表論文等」の項を参照）では、*Brave New World*（1932）に登場する“Savage Reservation”に注目し、その表象が、スミソニアン研究所の人類学資料や、Lawrence などのアマチュア人類学者の言説から影響を受けつつ、それに抗う「他者」像を提示していると指摘した。そしてこの小説が、文明人／未開人、白人／非白人、支配者／被支配者といった、同時代の人類学がしばしば無批判に前提としていたアイデンティティ概念そのものに疑問を呈するテキストであると評価した。一方、“Buddhism, Pacifism and Ecology in Aldous Huxley’s Later Vision of Utopia”〔発表〕では、Huxley の若い頃からの人類学への興味が、平和主義やエコロジー、仏教への中年以降の関心と結びつき、*Island*（1962）などの後期作品のなかで、異文化の混じり合うユートピアの構想へと結実したと主張した。このユートピア思想については、“Utopia and Totality in Aldous Huxley’s Later Work”〔論文〕においてマルクス主義の観点から、“Aldous Huxley and D. T. Suzuki: A Biographical Consideration of Their Relationship”〔論文〕におい

ては仏教学者の鈴木大拙との関係からアプローチした。

(2) 2020 年度

当該年度は、出席予定の国際会議がウイルス禍により相次いで中止となったため、執筆に専念した。人類学と関連深いオリエンタリズムやジェンダーの視点からユートピア思想を考察した。*Orientalism and Reverse Orientalism in Literature and Film: Beyond East and West* [図書、共著] は、Edward W. Said によるポストコロニアル批評の古典 *Orientalism* (1978) の重要性を認めつつ、昨今のグローバリゼーション下の状況を踏まえその理論を学際的に再考したものである。私の章は、Huxley や大拙などに見られるユートピア思想が、オリエンタリズム言説の例として批判的に位置づけられるだけでなく、オリエンタリズムの抱える政治的、文化的問題（例えば「東洋」「西洋」の本質主義的な理解、両者の不平等な関係性）を克服しようとしていたと評価できると主張している。また、“The Mother-Child Relationship in E. M. Forster’s ‘The Machine Stops’ and Aldous Huxley’s *Brave New World*” [論文] では、Forster のディストピア短編を母子関係に注目して分析し、のちのユートピア文学に与えた影響を具体的に指摘した。

(3) 2021 年度

当該年度は、オリエンタリズムやジェンダーに対する前年度の関心を発展させ、主に 19 世紀末から 20 世紀初期の作品で、これまで本研究で取り上げてこなかったテクストを分析対象とした。前年度できなかった国際会議の発表を中心に活動した。“*Lost Horizon Revisited*” [論文] では、James Hilton のユートピア小説について、チベットに理想郷を見出そうとする姿勢にオリエンタリズムの問題があることなどを指摘した。“Mother and Son in ‘Dystopia’” [発表] はユートピア文学における母子関係の描写に注目し、“Motherhood and Reproduction in the Dystopian Future” [発表] はユートピア文学や To-Day and To-Morrow シリーズにおける母親業や生殖の捉え方に焦点を当てた。後者では、Rose Macaulay、Vera Brittain、Charlotte Haldane、Naomi Mitchison などの女性作家のジェンダー表象を、Ruth Benedict や Margaret Mead などの女性人類学者のジェンダー観と比較し、女性性／男性性といった概念が社会的に構築されるものであるとする認識が共通して見られることを指摘した。また、“Aldous Huxley and E. M. Forster” [発表] では、両作家のユートピア思想について、文明論や平和主義の点で類似性が見られると主張した。

(4) 2022 年度（期間延長）

当該年度は、本研究の集大成として、19 世紀末から 20 世紀中期のユートピア作品を概観し、ユートピアの歴史において人類学的関心が後続する作品へとどのように引き継がれたのかを検討した。“*Anthropology and Utopian Literature before and after Brave New World*” [発表] では、多くのユートピア文学に登場する、異文化の「他者」との関係構築に取り組む（疑似）人類学者の表象に注目した。人類学者が、読者に情報を提供する（ユートピア世界との）媒介者の役割、テクストの公平性を担保する批判的観察者の役割、読者に現実を改善するよう促す社会改革者の役割、そして現実の人類学（者）を批評する役割を担っていることを明らかにした。この発表を踏まえ、*Special Edition of Babel Transverses - Aldous Huxley* [図書、共著] の私の章は、20 世紀の代表的ユートピア作品における人類学者の表象を論じている。Huxley は *Brave New World* のなかで、Said がのちに批判する、人類学者と被観察者の間にある力の不均衡や本質主義的な「他者」理解を問題視し、*Eyeless in Gaza* (1936)、*Ape and Essence* (1948)、*Island* といった後期作品において人類学者の理想像を提示している。それは、西洋に知的背景を持ちながらも、フィールドワークや非西洋の思想の学びを通じて、誰もが能力を発揮できる社会づくりに従事する者である。これに対し Ursula K. Le Guin も、*The Left Hand of Darkness* (1969)、*The Word for World Is Forest* (1972)、*The Dispossessed* (1974) などの初期作品において、そのような人類学者の理想像を受け継いでいるが、他者に寄り添う姿勢をより強調している。すなわち、他者とともに学び、他者を注意深く記述し、他者に共同作業員として人類学に参加してもらう相互的関係性を確保する者である。この点で、人類学者 James Clifford の批評を予見している。20 世紀の中後期は、帝国主義や西洋中心主義が論争、批判的となったが、人類学者がこのようなイデオロギーとの関連性を認識しそれを克服しようとしたのと同様に、ユートピア作品の作家も、ユートピアの伝統における西洋中心主義的、帝国主義的性格に気づき、文化的に混淆したユートピアを提案することで、軌道修正を図ろうとしたのである。これら作家の理想とする人類学は、人類愛や異文化交流の意義を信じ、変わりゆく人々、文化、世界との関わりを通じてつねに発展していく実践的学問である。この意味で、今日の人類学者 Tim Ingold の人類学観——人類学とは、人類学者が他者を真剣に受け止め、世界中の知恵を活かしながら、人生の意味や可能性について他者とともに思索する「進行中の学問」であるという考え——と共鳴するものである。

(5) まとめ

期間全体にわたる研究により、①ユートピア文学・思想が、異文化や他者を想像し、「自分たち」とは違った人間性や世界のあり方を追求するうえで、人類学言説から大きな影響を受けていたこと、②ユートピア文学・思想が、人類学に対して、異文化を理解、記述することの難しさや、他者とともに学び生きることの大切さを説くなどの提言を積極的に行っていたことが明らかとなった。後者には、20 世紀後期の Said や Clifford らの人類学批評を先取りするものや、21 世紀の Ingold らの人類学観と共鳴するものも含まれている。本研究は、従来の研究であり注目されてこなかったユートピアと人類学の関係を具体的に検討し、その成果を国際的な会議、著書、雑誌を通して発表できた点で意義があった。今後は、対象とする時代や地域をより広げ、ジェンダーや帝国主義の問題をより意識してユートピア文学・思想を研究していきたい。ジェンダーについては、科研費の新たな研究課題（22K13080）において取り組む。帝国主義については、*Wastelands and Wonderlands: Essays on Utopian and Dystopian Fictions* [図書、共著] のなかで論じる。本研究の成果はこのように引き継がれていく。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 4件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Hisashi Ozawa	4. 巻 59
2. 論文標題 Lost Horizon Revisited	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 The James Hilton Newsletter	6. 最初と最後の頁 1-4
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 —

1. 著者名 Hisashi Ozawa	4. 巻 10
2. 論文標題 The Mother-Child Relationship in E. M. Forster's "The Machine Stops" and Aldous Huxley's Brave New World	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Language and Literary Studies of Warsaw (Anniversary E. M. Forster Issue)	6. 最初と最後の頁 283-303
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 —

1. 著者名 Hisashi Ozawa	4. 巻 19
2. 論文標題 Aldous Huxley and D. T. Suzuki: A Biographical Consideration of Their Relationship	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Aldous Huxley Annual: A Journal of Twentieth-Century Thought and Beyond	6. 最初と最後の頁 199-218
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 —

1. 著者名 Hisashi Ozawa	4. 巻 2nd Series, No. 8
2. 論文標題 The Vestiges of Imperialism in Aldous Huxley's Brave New World: Reconstructing a Hidden History behind the World State	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Op.Cit.: A Journal of Anglo-American Studies	6. 最初と最後の頁 97-115
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 —

1. 著者名 OZAWA Hisashi	4. 巻 543
2. 論文標題 Utopia and Totality in Aldous Huxley's Later Work	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 The Bulletin of Arts and Sciences, Meiji University	6. 最初と最後の頁 43-59
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 —

[学会発表] 計5件 (うち招待講演 0件/うち国際学会 5件)

1. 発表者名 Hisashi Ozawa
2. 発表標題 Anthropology and Utopian Literature before and after Brave New World
3. 学会等名 First Virtual International Conference on the Fantastic in the Arts (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Hisashi Ozawa
2. 発表標題 Aldous Huxley and E. M. Forster
3. 学会等名 Seventh International Aldous Huxley Symposium (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Hisashi Ozawa
2. 発表標題 Motherhood and Reproduction in the Dystopian Future
3. 学会等名 12th Annual Meeting of the Association for Research in the Fantastic (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Hisashi Ozawa
2. 発表標題 Mother and Son in "Dystopia"
3. 学会等名 Science Fiction Research Association Annual Conference 2021 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Hisashi Ozawa
2. 発表標題 Buddhism, Pacifism and Ecology in Aldous Huxley's Later Vision of Utopia
3. 学会等名 20th International Conference of the Utopian Studies Society, Europe (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 Alice Cheylan, Alain Morello, Hisashi Ozawa, et al.	4. 発行年 2024年
2. 出版社 Effigi	5. 総ページ数 -
3. 書名 Special Edition of Babel Transverses - Aldous Huxley (正式タイトル未定)	

1. 著者名 Sharmani Patricia Gabriel, Bernard Wilson, Hisashi Ozawa, et al.	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 17
3. 書名 Orientalism and Reverse Orientalism in Literature and Film: Beyond East and West	

〔産業財産権〕

〔その他〕

本研究課題に関連する翻訳として、サンダー・L・ギルマン著『肥満男子の身体表象』（共訳、法政大学出版局、2020年）、ジョン・ウィリアムズ著「カフカの小説Der Prozessを日本語映画『審判』に翻案する」（『文化とアダプテーションII』、春風社、2021年）、D. T. Suzuki, "Preface to Kuon no shinri (1951), the Japanese Translation of The Perennial Philosophy"（英訳、Aldous Huxley Annual、第19巻、2020年）を発表した。ユートピアについての一般向けエッセイとして、「『あらゆる世界を最大限活かす』ユートピア主義」（『明治』、第89号、2021年）を発表した。また、Matthew Leggatt編、Wastelands and Wonderlands: Essays on Utopian and Dystopian Fictions（SUNY Press、2024年刊行予定）に、ユートピア文学と帝国主義の関係についての章が収録される（要約採用済）。

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------